参考資料

食品中の放射性ストロンチウム及びプルトニウムの測定結果

表2　調査B(平成25年2･3月採取試料)における放射性ストロンチウム、プルトニウムの濃度
(210試料中12試料の濃度を測定)

地域	食品群	濃度 (Bq/kg)			
		Sr-90	Pu 238	Pu 239+240	参考 (Cs-134+Cs-137)
福島県(浜通り)	6	0.033			9.3
福島県(中通り)	2	0.040			0.51
福島県(中通り)	6	0.033			5.2
福島県(会津)	6	0.036			4.5
岩手県	5	0.067	ND (0.0003 ～ 0.003)	ND (0.0003 ～ 0.003)	1.4
岩手県	12	ND(0.02)			0.91
宮城県	13	0.087			0.69
茨城県	8	0.027			0.58
茨城県	11	ND(0.02)			0.59
栃木県	10	ND(0.02)			0.75
東京都	7	0.039			0.50
新潟県	10	ND(0.02)			1.9

ND：検出限界値未満
(　)内は検出限界値を示しており、試料量、測定時間、バックグラウンド値等により変動する。

厚生労働省発表資料（平成26年5月23日）
http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000046549.html

食品中の放射性ストロンチウム及びプルトニウムの測定結果

- 一部の試料から、 Sr-90 が検出されたが、いずれも 事故以前の範囲内。
- プルトニウムは検出されず。
- この結果は、平成24年２月から５月に実施した調査の結果と同様

厚生労働省発表資料（平成26年5月23日）
http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000046549.html

食品の汚染状況

- セシウムによる被ばく量は極めて少ない
- セシウムが入っていた家庭の食事でも、カリウム40の被ばく量を合計すると、全体的には被ばく量が増えるわけではない
- 汚染しやすい食品は限定：山菜、野生のきのこ、野生動物、海水魚（底魚）、天然の川魚
- ストロンチウム90は全国的に検出されるが、事故前と変わらない
- プルトニウムは検出されていない
- 外部被ばくより内部被ばくが大きくなることは、まず考えられない